

JSS



だより

2017年度第9号

2017年12月2日

カラー版: <http://www.iss.edu.sg/>

PA主催

のまりんの紙芝居劇場、大盛況でした！

11月25日の授業終了後、「のまりん」の愛称で親しまれる紙芝居の達人、野間成之先生が本校にお越しくださり、『のまりんの紙芝居劇場』が開催されました。

のまりん先生がシンガポールで公演されるのは、今年で17年目。本校での公演は、今回が初めてです。この日を心待ちにしていた、約80名の子ども達と保護者らで、会場は約130名の満場となりました。元気よく集まった子ども達は、はじまりの手遊び歌から盛り上がり、準備万端となったところで、いよいよ開演となりました。

拍子木をカンカンカンカンと打ち鳴らしながら、改めてのまりん先生が登場しました。さあ、どんなお話が聞けるのかなと思っていたところ、拍子木をマイク代わりに歌を歌ったり、冗談を言ったり、芸人さながらに子ども達の心をぐぐつつかんでから自己紹介が始まりました。「金沢からやって来ました。77歳で一す！」そうのまりん先生が挨拶されると、子ども達から大爆笑と共に、拍手が湧き起こりました。

【はじまりの歌から盛り上がりました】

【拍子木を使って楽しく】



この日一番最初の演目は、『たからおばけ』でした。ジジとババ、そしておばけの一人三役が、役者顔負けの豊かな表情、情感溢れる声色で演じ分けられながら、リズムカルにお話が進んでいきました。子ども達は、臨場感たっぷりのエンターテイメントの紙芝居の世界にぐんぐんと引き込まれ、笑い声をあげながら、キラキラと目を輝かせて聞いていました。

【集中して聞く子ども達の様子】**【質問にも積極的に答えました】**

その後、『ひもかとおもったら』、『かめのえんそく』。続いて、手遊び歌の『にくまん あんまん』をはさみ、最後は『まんまるまんま たんたかたん』で締めくくっていただきました。

テンポが良く、見ているだけに留まらない参加型の紙芝居に、子ども達も身を乗り出し、質問にも積極的に答えながら、どのお話も大いに楽しみました。日本発祥の文化である紙芝居を堪能した、あっという間の30分でした。

公演後には、子ども達が次から次へののまりん先生を囲み始めました。握手を求める子や、質問をする子ども達へ満面の笑みで受け応えてくださったのまりん先生の、子ども達に寄り添う優しい眼差しも印象的でした。

野間先生にはこの場をお借りして、改めて感謝申し上げたいと思います。とても楽しく貴重な時間を本当にありがとうございました。

PA役員一同